

古事記

めぐり旅

Vol. 3

身近な場所にある古事記ゆかりの地をめぐってみませんか？

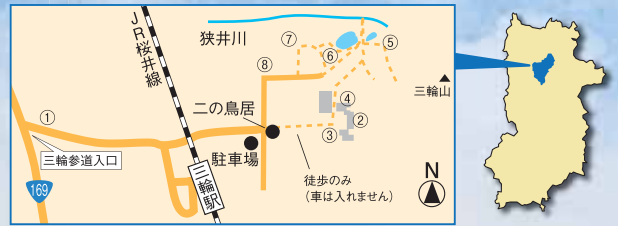


おおみわ 大神神社 神が神を祀った はじまりの社

日本の国造りに励む大物主神のころへ、海を照らしてやって来た神が協力を申し出ます。この神、大物主神を大國主神が三輪山に祀り、国造りが完成したと『古事記』に記されています。

大神神社のご祭神は大物主神。ご神体は三輪山です。神が神を祀ったとされる我が国最古の社と称され、国の成り立ちを記した『古事記』の要所にたびたび登場します。

その一つが大物主神の神婚伝承。初代天皇とされる神武天皇の皇后は「三輪の神の娘」でした。矢に姿を変えた大物主神が川伝いに恋する乙女のもとへと流れ、夫婦となって生まれた姫君です。神武天皇は笹ゆりが咲く狭井河のほとりでの姫を見初めて結ばれました。



「大神神社」 函 桜井市三輪1422 ☎ 0744-42-6633

- ①大鳥居
- ②大神神社拝殿
- ③巳の神杉
- ④なでうさぎ(参集殿内)
- ⑤狭井神社・三輪山登拝口 (受付は14時まで)
- ⑥大美和の杜(展望台)
- ⑦久延彦神社
- ⑧大直禰子神社

またその後、崇神天皇の時代に国が減びるほどの疾病が流行ったときも、大物主神が現れます。大物主神の子孫、意富多々泥古が大神神社をお祀りすることで疾病は止み、国は平和を取り戻しました。

境内には今も笹ゆりが咲き、薬井戸がある摂社の狭井神社とともに、疾病平癒の鎮花祭を行っています。

国のまほろば、大和国一宮の大神神社には、このほかにも幾多の神話伝承が伝わります。国造りの神様は、遙かな時を超え、医薬や酒造、縁結びなど暮らし全般の守り神として人々に親しまれています。



「巳の神杉」
大物主神の化身とされる蛇が棲むご神木。「巳さん」と親しまれ、好物の卵が供えられている。江戸時代には「雨降杉」と呼ばれ、雨乞いがされた。



「なでうさぎ」
参集殿で参拝者を迎え、なでればご利益があるとか。卯と社の縁は深く、毎月「卯の日祭」が行われる。大物主神は「因幡の白うさぎ」の神話とも関わり深い。



「大直禰子神社」
大物主神の子孫で、大神神社の神主であった意富多々泥古を祀る。奈良時代からの神仏習合により寺院の姿を残す。大神神社の摂社で若宮とも呼ばれる。



「拝殿」
ご神体は三輪山であり、本殿はなく拝殿のみ。拝殿奥に建つ「三ツ鳥居(三輪鳥居)」から山を拝む、古代信仰の形を残す神祀りが伝わる。

大古事記展

五感で味わい、愛と創造の物語
こちまがたま
子持勾玉(大神神社蔵)



「大古事記展」では県内の『古事記』ゆかりの神社が所蔵するご神宝を展示します。大神神社からは子持勾玉などが出品されます。親勾玉のまわりに複数の小さな子勾玉がついたものを子持勾玉といひます。展示される子持勾玉は古墳時代の製作であり、神聖な三輪山内の禁足地などから発見されました。これらは何らかの呪力をもつものとして、繁栄などを祈願する祭りに用いられたと考えられます。

関東ならの魅力創造課 ☎0742-27-8975 FAX 0742-27-7744

